

# センドードつうしん

第8号（特別号） 2023年11月

仙台・羅須地人協会



## 特別号発行の辞

大内秀明当協会代表が、この9月「宮沢賢治賞奨励賞」を受賞されました。わたしたちは「仙台・羅須地人協会」の会員として誇りに思い、「センドードつうしん」の特別号を編むことによって祝意を示すことにしました。その呼びかけに応じて短期間のうちに多くのお祝いの「文辞・言句」が寄せられました。大内経済学が、宮沢賢治の思惟・思索とついに合流する地点にいたったことを皆が理解し、納得しつつ表現された「祝祭のことば」です。これを大内代表にお届けするとともに会員のみなさまにお送りします。

受賞のことば

大内秀明

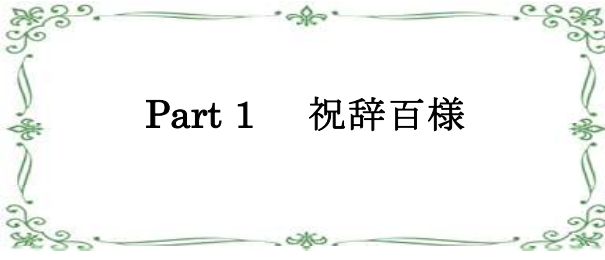
“芸術をもてあの灰色の労働を燃やせ”（宮沢賢治『農民芸術概論綱要』）。この一句とのめぐりあい。それが、私のなかで宮沢賢治が焦点をあわせて立ち上がった瞬間でした。

マルクス経済学の研究を志して三〇年余、イギリスでの在外研究時に、実はマルクスの思想をその深みにまで踏み込んでとらえていたウイリアムモリスと出会いました。日本では、デザイナー、詩人として知られてきたモリスが、“芸術の回復は、労働に於ける悦びの回復でなければならぬ”と、人類社会のありかたを見事に透察した箴言を残していたことを識つたのです。賢治の一句がモリスの箴言と通い合うと直感できたのは必然でした。マルクス、モリス、賢治をつらぬく糸がはつきりと見えたとはいえよいでしょつか。

晩期マルクスの「共同体」志向、モリスの「ギルド・アソシエーション」、そして賢治が『ポラーノの広場』で示唆したような「農村共同体」が太い線につながったのです。さらには私の生涯の師、宇野弘蔵先生がいわば控えめに示されていた「社会的労働協同体」という概念とも通じました。

今回の「宮沢賢治賞奨励賞」は、このようなテーマを考察した私の最近の議論に目を向けていただいた上に、それを評価してくださいという点で本当にうれしく思います。とくに「奨励賞」というのは「伸びしろ」が期待されるということだと推察しますので、さらに賢治を修めるべく励みにしたいと思います。

『第三三回宮沢賢治賞イーハトーブ賞』贈呈式 プログラムより



## Part 1 祝辞百様

### 大内先生の「宮沢賢治賞奨励賞」

受賞をお祝いして

半田 正樹

2023年8月13日、「秀明さん『宮沢賢治賞奨励賞』受賞」のメールが届いた。「宮沢賢治と音楽」をテーマに、6月に二度にわたって「仙台・羅須地人協会」ゼミを担当してくださった佐々木孝夫さんからの吉報であった。

宮沢賢治学会イーハトーブセンターによる「選考理由」(趣旨)は次の如くである。大内氏は、著書『甦るマルクス―「晩期マルクス」とコミュニタリアニズム、そして宮澤賢治』において、「産業組合青年会」(詩)、「ポラーノの広場」(童話)、「農民芸術概論綱要」(評論)などの宮沢賢治の作品に流れる共同体思想が晩期マルクスのもものと共通することを指摘しつつ、それが現代社会のかかえる諸課題の出口にも通ずることを突きとめた、と。

宮沢賢治学会イーハトーブセンターからすれば、あくまでも宮沢賢治における共同体思想と「大内コミュニタリアニズム」が重なるということに焦点を絞るのは当然である。

しかし、「大内コミュニタリアニズム」の真骨頂は、晩期マルクスと宮沢賢治との重なりばかりではなく、ウィリアム・モリスと宇野弘蔵の思索にも射程を延ばして組み立てられている点にこそあるというべきであろう。

周知のように、晩期マルクスは、共同体に強い関心を寄せ、モルガンの『古代社会』に丹念にあ

たりながら『古代社会ノート』を残した。モリスは、こうした動きに触発されながら、家族や共同体について詳細に論じた。「大内コミュニタリアニズム」は、こうした晩期マルクスの思想やモリスの考えをふまえた議論であり、それが同時にモリスからきわめて大きな影響をうけた宮沢賢治の思索と符節を合わせる構制となっている。宮沢賢治の『ポラーノの広場』の「讚美歌448番の合唱」で終わる最後の場面が、モリスの代表作『ユートピアだより』のラスト・シーンと重なることを見抜いたのは大内先生の慧眼というべきである。なるほど、『ユートピアだより』は、モリスのコミュニタリアニズムの夢が讚美歌とともに歌われるという情景で終わっている。

そして「大内コミュニタリアニズム」の真髄は、宇野弘蔵が資本主義に特有な「経済法則」と区別して提起したあらゆる社会に共通の「経済原則」としての「社会的労働協同体」の人類史的意味を鮮明に位置づけた点にある。

(晩期)マルクス、ウィリアム・モリス、宮沢賢治、宇野弘蔵の理路の延長上に「大内コミュニタリアニズム」が聳立するのである。受賞を心からお祝い申し上げたい。

+ + + +

### 大内先生、宮沢賢治賞奨励賞

おめでとうございます！

加藤 純子

この賞は宮沢賢治に関する優れた研究・評論・創作などを毎年顕彰するために花巻市が1991年に創設したもので、選考を委嘱されている宮沢賢治学会イーハトーブセンターは、昨年刊行された『甦るマルクス「晩期マルクス」とコミュニタリアニズム、そして宮澤賢治』が宮沢賢治の名において顕彰されるにふさわしいということが選考理由と書か

れています。

私が仙台・羅須地人協会に加わって約7年になりますが、マルクスの資本論の講座で宮沢賢治を論じる大内先生に最初はビックリしました。しかし「晩期マルクス」の共同体社会主義についての話を繰り返し聞き、最初の違和感は薄れていきました。

昨年10月19日の「『甦るマルクス』出版お祝い会」でいただいたこの本の後半部分「補論 東北・土に生きるコミュニタリアン宮澤賢治」を今読み直しています。この本は文字が大きくて読みやすいところが大変良いですね。2017年1月開催の「賢治・秀松農民芸術祭」での大内先生の話が聞こえてくるようです。

今回で33回になる「宮沢賢治賞・イーハトーブ賞」。受賞者は文学者（児童文学を含む）、絵本作家、ファンタジー作家、小説家、画家、書家、詩人、歌人、宗教学者、農業学者、文化人類学者、民俗学者、美術評論家、経済評論家、宇宙飛行士、音楽家、作曲家、演奏者など多岐にわたります。経済学者は多くないようですが、大内先生の著書『賢治とモリスの環境芸術』の第二部八章でとりあげられている吉本隆明氏、多田幸正氏も受賞されています。

私は盛岡出身ですがこの会のことは今回初めて知りました。過去に開催されたセミナーも興味深く、早く知っていれば聴きに行きたかった。1999年イーハトーブ賞奨励賞受賞の中村伸一郎氏は私が中学2年から高校2年までピアノを教えて頂いた先生です。受賞年にマリオス小ホールで賢治の精神歌の編曲演奏、合唱指揮のイベントがあったようです。岩手県図書館で資料（楽譜など）をさがしてみたいです。2017年イーハトーブ賞奨励賞受賞の合唱団じゃがいもは大学の後輩（大学では私も合唱してました）が所属している縁で

「銀河鉄道の夜」と「ポラーノの広場」の合唱劇を聴きました（子供も出演し動きのある劇です）。今年12月に山形で開催の第50回定期演奏会を久しぶりに聴きに行くつもりです。

今年6月の羅須ゼミで佐々木孝夫氏の「賢治とSPレコード」の講演があり、賢治が聴いたクラシックやジャズの話を知りました。その時購入のCDを聴きながら大内先生の本を読もうと思います。

+ + + +

### 宮沢賢治賞奨励賞の祝辞

岩谷 芳江

大内先生、この度は宮沢賢治賞奨励賞の受賞、誠におめでとうございます。

大内先生には仙台・羅須地人協会へのお誘いを頂きましたのを機に、当会の皆様と共にマルクスの『資本論』を中心に学ばせて頂くことができましたこと、心より感謝申し上げます。また、その運営に携わって下さいました運営委員の皆様にも、心より御礼申し上げます。大内先生の受賞は会員にとりまして大変な名誉で、嬉しい限りです。

大内先生はマルクスの資本論セミナーの中で、宮沢賢治も資本論を読んでいたと思われる旨を時折、私たちにお話しされておられ、その度に賢治はどんな風に資本論を読み、感じていたのかを想ったものです。地元花巻で賢治の生徒だった方々への聞き取りによると、生徒たちにも資本論らしきことを伝えており、難しかったことを遠巻きに話しておられます。生徒たちに少しでも解ってもらいたかった賢治先生の思いは貴重であり、生徒は羅須地人協会の精神を無意識の内に学んでいたように思われます。

仙台・羅須地人協会の会員である私たちも、大内先生を通してセミナーでのお話や書物から、花巻の生徒たちと同じように、難解なマルクスの資

本論や賢治の童話を通し少しずつ羅須地人協会の精神に精通する何かを学ばせて頂いたように思われます。

個人的にも、宮沢賢治の"雨にも負けず"を何度も読み直してきました。羅須地人協会の精神が凝縮されている詩であると考えます。「一日ニ玄米四合ト味噌ト少シノ野菜ヲタベ」は今の時代ではどのように解釈すべきか、「北ニケンカヤソシヨウガアレバ、ツマラナイカラヤメロトイヒ」ではロシアのウクライナ侵攻、イスラエルとパレスチナ・ガザ地区との軍事衝突で誰も止められない現実をどうすべきか、「日照リトキハ涙ヲナガシ」…私たちが欲で何とかしようとしていることを反省しつつ、今後も宮沢賢治を深く学び続けたいと思っております。

+ + + +

### 大内先生の宮沢賢治賞奨励賞

#### 受賞を祝います

#### 芳川 良一

大内秀明先生はいまや生きておられる数少ない宇野理論の継承者(宇野弘蔵直系)です。その大内先生が資本論ゼミをやっていると聞きつけ、宇野理論で資本論を読み直したくて仙台・羅須地人協会に参加しました。そのころはまだZoomも普及してなかったもので、せっせとクルマで仙台通いをしました。

資本論をまともに開いたのは四十数年振りでした。はるか昔の若いころに抱いた資本論や宇野理論への憧憬や何度も何度もページをひっくり返しながらか理解できなかったことが蘇ってきました。同時にこの歳になって(当時60代半ば近く、現在73才)年甲斐もなく追初心や向学心がムクムクと湧き上がってきて、おおいに刺激されました。わたくしの愚にもつかない、素朴な、ときには的外

れであったり、きわめて初歩的な質問(疑問)にもまともに答えてくれる大内先生の姿勢に大いに感動し、とても有難く思ったものです。

わたくしは宮沢賢治の『農民芸術概論綱要』が好きです。手に入れたのは資本論ゼミに参加する前だったとおもいます。花巻の賢治博物館で見つけました。お気に入りの小冊子で、時々書棚から引っ張り出しては、眺めていました。しかし、それだけです。何故そうも惹かれるのかさえ考えませんでした。

しかし、大内先生のゼミが、資本論から晩期マルクス、W.モリス、E.B.バックス、そしてコミュニタリアニズムへと展開され始めて少しずつその理由が見えだしてきました。それと同時に、大内先生の着想の素晴らしさ(奇抜にさえ思えた時期もありましたが)、それらを結び付け、理論的に裏付けする、なんとも目を見張る思いです。宇野理論をベースにしての大内理論の展開です。深遠な理論に触れえた喜びを感じています。

その研究成果の著書がこのたび宮沢賢治賞奨励賞の受賞になったわけですが、わたくしは二つ不満を感じています。ひとつは何故いまになってなのか、もっと早く受賞しても良かったのではないかと。もう一つは何故奨励賞なのか。宮沢賢治賞に十分値するのではないかと。まあ、しかしものは考えようで、それもこれも授賞する側がようやく今になってその偉大な業績に気が付いた、これから大内先生の研究成果が普遍的な説となり定着していくのだらうと思えば、納得がいきます。不満な思いもなんとか静まります。幸運にも大内先生の偉業の片鱗に触れることができたものとして、素直に喜びたいと思っております。

(大崎市三本木在住)

+ + + +

## 大内先生へのみちのく巡礼よりの感謝の辞

櫻井 史朗

大内先生 宮沢賢治賞奨励賞の受賞おめでとうございます。先生を始めとする会員の皆様のご研鑽とご尽力の賜物とお喜び申し上げます。宮沢賢治と地震につきましても、生まれた年に「明治三陸津波」、亡くなった年に「昭和三陸津波」が発生し、各々甚大な被害をもたらしました。私の心中では、宮沢賢治と地震・津波とは深く関連付けられています。

さて一般社団法人みちのく巡礼に関してですが、大内先生には相談役・顧問として10年以上の長きに渡ってお世話になっており、深く感謝申し上げます。みちのく巡礼の活動は、東日本大震災後創設者一人で開始しましたが、次第に活動の輪と賛同寺院が増えましたので、主旨を「祈り・伝承・防災」とし、キャッチフレーズを「千年伝えて未来の命を守る」として一般社団法人化しました。同時期、大内先生が教え子や関係の方々と共に仙台・羅須地人協会を立ち上げられました。大内先生は私の兄の東北大学での恩師でしたので以前から存じ上げていましたし、みちのく巡礼監事の大江勝秋氏が仙台・羅須地人協会の事務局でしたので互いに協力団体となりました。その後大平達郎氏、田中史郎氏に理事として就任していただきました。大内先生には会報「未来への祈り」の記事収録対談やイベントの際にご挨拶を頂きました。また、自然災害から尊い命を守る防災精神の啓発を目的に制作したDVD「みちのく巡礼 次世代に語り継ぐメッセージ」の監修をしていただきました。

東日本大震災は、単に恐ろしいだけではなく、人々に「働き方」「暮らし方」そして人間としての「生き方」そのものについても、深い反省を迫ったと思います。当初の地震、津波、加えて福島第一

原発の放射性物質と、経験したことのない複合災害への恐怖から、復興の遅れなどへの失望、さらに原発事故については廃炉、除染など、今や絶望の淵に落とされた。近代科学技術文明の限界を突きつけられました。

「みちのく巡礼」は、被災者の供養や鎮魂にとどまらず、近代科学文明が忘れ去ってしまった信仰の力、人々の睦み合う心の大切さ、そして地域が寄り添う拠りどころとしての寺院の価値を教えてください。皆さんの協力を期待します。

(みちのく巡礼創設者、初代理事長、現総括理事)

+ + + +

マルクス・宮沢賢治・大内先生

—受賞を祝して—

金森 明男

大内先生により宮沢賢治の『農民芸術概論綱要』を知りましたが、同時に問われていることがあると思いました。

「序論

……われらはいっしょにこれから何を論ずるか……

近代科学の実証と求道者たちの実験とわれらの直観の一致に於て論じたい

世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」

近代科学の実証＝人の行動と、求道者たちの実験＝人の精神活動を人々の各々の直観で判断するとし、だから、各々、各種多様な判断を尊重しながら、「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」とするのですから、何人も排除しないのですが、間違いに気がしました。「世界がぜんたい」と表現しています。最初、人類全てが、と無意識に読みましたが、そうではありません。世界全てが、です。何人も排除しな

いのは勿論の事、自然界迄含めて考えています。「世界がぜんたい幸福」とし、人の様な主体性の無い自然に幸福など、おかしいのですが、調和の取れた世界が理想なのだと考えています。

自然さえも人間の支配下に置けると考える思想・価値観とは対極にあります。

「農民芸術の批評

……正しい評価や鑑賞はまづいかにして  
なされるか……

批評は当然社会意識以上に於てなさねば  
ならぬ」

マルクス『経済学批判』序言で、「人間の社会的存在がその意識を規定するのである。」としますが、確かにこの通りの側面が濃厚とは思いますが(そうなら、意識を変えられるのか?)、上記に続いて「社会の物質的生産諸力は」とすれば、人間社会には、肉体・精神の活動があり、両方で社会活動が営まれるのですから、ならば、片方の側面を視野に入れないとすれば、残りの側面を補完するものとして意味を持ちます。

「結論

……われらに要るものは銀河を包む透明な  
意志 巨きな力と熱である……

理解を了へばわれらは斯る論をも棄つる  
畢竟ここには宮沢賢治一九二六年のその  
考があるのみである」

最後の二行を最初に読んだ時、何だと反発しましたが、しかし、これは、宮沢賢治の意思を後世に託す時、何人にも、どの様な形であれ、強制しない、だから、各々の自主性を尊重する事を、表明したのだと思うに至りました。

先生にご教授賜り、宮沢賢治の寛容の精神を体現された、誰に対しても分け隔てなく接しているお姿を拝見出来、また、今回、長年の功績が認

められ受賞に至った事、感謝と共に、お慶び申し上げます。

+ + + +

**宮沢賢治賞奨励賞受賞**

**おめでとうございます**

**末永 茂**

当協会の大内秀明代表が宮沢賢治に関する優れた研究を顕彰する賞を受賞したことは、活動団体名や著作物から自然な成り行きだったと思う。ただ今月からこの活動団体が休会することだったので、時宜に叶ったものなのかという若干の疑問も残る。氏は元々、宇野系の原論研究者であり同学の仲間と精力的に執筆活動を展開してきた人物であるが、時代の流れと共にそれぞれ独自の道を歩む傾向も強まった。特にソ連崩壊によるマルクス経済学の退潮が大きな影響を与えており、さらにウクライナ戦争が拍車をかけている。

宇野系のジャーナルは『クライシス』や『アソシエ』『変革のアソシエ』等々、いずれも10年足らずで活動が途切れてきた。長期継続による編集責任者の独裁が回避されてきたが、一貫性という観点からは、理解に苦しむ所である。筆者はこうした疑問を感じていたので、これまで社会政治活動志向の強いジャーナルには関わって来なかった。正義論や「罪と罰」に関わる実際上の問題は、時代普遍性を持つ側面も存在はするが、極めて相対的に評価される観念である。理想を高く掲げるのは結構だが、現実社会を変革ないし正義論を訴えるためには、多大な費用を要する。社会変革のコストを誰が担うのか。非現実的な夢を語るだけなら、それでもある程度は意味を成すが、現実社会問題と絡めて論ずるには相当の無理がある。マルクシズムの悪弊として、社会運動や政治

活動と理論研究を混同する点が挙げられる。

アリストテレスはじめ古典籍の研究は、時代背景抜きには理解できない。当時の原理的研究を単純に引き延ばし、あるいはそれとの齟齬をもって現代社会を批判することなど出来ない。宇野理論の現状分析はその様なものではない。現代資本主義社会は様々な矛盾と不合理が渦巻いているが、それは資本主義社会にだけ見られる現象なのか、大いに議論の余地がある。どんなに精緻な議論であれ理想社会像を描き、それを強制力によって実現する行為は多大な社会的犠牲を伴うはずである。

晩期マルクスのパリ・コミューンは都市型の自治共同体論であり、宮沢賢治の農村共同体論とも異なるが「共同体論」としては、重なる所もあるのだろう。しかし、その社会観をもって現代に蘇生することなど可能なのか？ また、共同体即善を施す社会組織といえるのか。受賞を機に、それらの諸問題を議論することは意義のあることかも知れない。

+ + + +

### 大内先生の「賢治とモリス」研究について

平山 昇

大内先生、宮沢賢治賞奨励賞の受賞、おめでとうございます。

大内先生の「賢治とモリス」研究について、亡くなられた福留久大氏は『進歩と改革』誌に「人新世時代の社会主義」を連載され、仙台・羅須地人協会と合わせて以下のように紹介されました。

「人新世時代を生き抜く知恵を求めて各地で模索が続くその一つに仙台・羅須地人協会がある。羅須地人協会は、1926年、宮沢賢治が花巻に開いた地域農民との共同研讃の組織。その精神の継受とともに、マルクス・モリスの社会主義

の要素を摂取して2013年に仙台に設立されたのが、仙台・羅須地人協会。発案し中心を担うのは、大内秀明・東北大学名誉教授。宇野弘蔵の直弟子として『資本論』の学説史的解明を軸とする学術活動とともに中央・地域の各種社会活動、で著名である。半田正樹（東北学院大学）・田中史郎（宮城学院女子大学）の二人の経済学者をはじめ尊敬する師への支援に尽力する老若男女の集いが形成され、『資本論』読書会、地域問題討論集会、出版活動が継続的に行われる」（『進歩と改革』2021年5月号）と。

しかし先年、福留久大氏が逝去され、その論考は中断されたままとなりましたことは無念の極みである一方、今回「著書『甦るマルクス「晩期マルクス」とコミュニタリアニズム、そして宮沢賢治』において、賢治の作品や実践活動の基盤に新たな共同体を志向する思想を見出し、これが晩期マルクスとも通底することを指摘するとともに、現代社会の課題への対処にも寄与する可能性を示唆した業績に対して」、大内先生が第33回宮沢賢治賞・イーハトーブ賞における宮沢賢治賞奨励賞を受賞されたことは、大内先生による経済学の領域を超える学際的な研究が、学際的に評価されたことであり、何よりも報われる思いを致すところです。

少年時代に宮沢賢治の「風の又三郎」や「銀河鉄道之夜」にふれた大内先生は、1982年のロンドン留学でW.モリスと出会い、宮沢賢治の「農民藝術概論綱要」に強い衝撃を受けて、晩期マルクスにおけるコミュニタリアニズム研究に向われたわけですが、ますます困難になるだろう時代の中で、大内先生に学びながら私的には「文学と共同体」に向うところ、仙台・羅須地人協会のみならず、これからもよろしく願いいたします。

+ + + +

## モリスと賢治、そして大内先生

田中 史郎

大内秀明先生から実に多くのことを学んだ。W.モリスと宮沢賢治にかんしても言うまでもない。賢治の「芸術をもてあの灰色の労働を燃やせ。」(『農民芸術概論綱要』1926年)は、モリスの"Art is man's expression of his joy in labour." (芸術は労働における人間の喜びの表現である)を受けたものだという理解も、先生から学んだものの一つだ(大内秀明『賢治とモリスの環境芸術』時潮社、2007年)。ちなみに、本協会Webページのバナーにはこのフレーズが掲げられている。

欧米においては、A.スミスを持ち出すまでもなく、古くから労働の本質は'toil and trouble'(苦勞と労苦)と把握されてきた。その系譜にある一つの作品がアメリカの社会主義者E.ベラミー『顧みれば』("Looking Backward"1888年)である。そこでは煩勞である労働をできる限り効率的に組織的に利用する社会が一つの理想として描かれている。今日の言葉でいえば、ハイテクを利用した徹底的な計画に基づく効率的な経済のありようが来たるべき未来社会像とされたのだ。

それに猛反発したモリスが執筆したのが、『ユートピアだより』("News from Nowhere". 1890年1月から11月まで、『コモンウィール』に連載。その後、1891年に単行本として刊行)である。モリスは、労働そのものの意義を問い、芸術を労働の表現であると把握したと考えられる。先のモリスの言葉はそれを端的に現している。その背景には、K.マルクスの言葉にある、労働が「単に生活の手段でなく、第一の生活の要求に」(マルクス『ゴータ綱領批判』)なるような未来社会のイメージや、モリス自身の関わった実践的な芸術活動や社会運動があると思われる。

先に引用した賢治『農民芸術概論綱要』の文言に添えられた「メモ」には、さらに「労働は常に苦痛ではない 労働は常に創造である 創造は常に享樂である 人間を犠牲にして生産に仕ふるとき苦痛となる」という記述がみられるという。

極めて興味深い。そして、これら「モリスと賢治」をめぐる研究に先鞭をつけた大内先生から学ぶべきことはまだまだ多い。先生の「宮沢賢治賞奨励賞」受賞を祝して。

## Part 2 お祝いの言葉

今野 禎市郎

また一つ、星が増えました。仙台市の郊外、作並の森に建てたばかりの「賢治とモリスの館」を訪れてから4、5年過ぎていましたか、大内先生の著作『賢治とモリスの環境芸術』を初見しました。そ

のあと14、5年わたり続々出された宮沢賢治に関する先生の本を読み続けました。そんな中、6冊目の最新作『甦るマルクス「晩期マルクス」とコミュニタリアニズム、そして宮澤賢治』が今年度宮沢賢治賞奨励賞を受賞しました。賢治研究に晩期マルクスやウィリアム・モリスに通底する共同体思想を提示したというのが選考理由です。16年前の本でも「賢治・モリスの共同体思想」として論じていますので、それを深化させた、ということでしょう。大内先生の活動、業績を称えて、また新しい星が加わりました。おめでとうございます。



\* \* \* \*

### 斉藤 淳子

大内秀明先生、この度は宮沢賢治賞奨励賞ご受賞おめでとうございます。

大内先生の視点で掘り起こされた宮沢賢治評、これからも進化するのではないかと思います。ますますのご発展をお祈り申し上げます。

\* \* \* \*

### 山崎 恭平

大内秀明先生、このたびは宮沢賢治賞奨励賞を受賞されまことにおめでとうございます。これからはますますのご健康とご活躍を心からお祈り申し上げます。

国見の丘以来のご高配にお応えできず、またご無沙汰してしまい、大変申し訳ありません。コロナ禍と闘病で外出自粛中ですが、ゼミ生と広瀬川の源流にある森のミュージアム「賢治とモリスの館」を訪れた時の感激にひたっております。そし

て、いただいた『賢治とモリスの環境芸術』をひもとき、多難な世の中の行方や心の安らぎを求めている次第です。(横浜市在住)

\* \* \* \*

### 小野瀬 裕義

先生おめでとうございます。宮沢賢治さんが労働派であったかどうかはわかりませんが世界の全ての人が幸福にならない限り個人の幸福はないという夢はマルクスと同じ夢だと思います。

\* \* \* \*

### 石郷岡 まさお

大内代表の宮沢賢治賞奨励賞受賞、おめでとうございます。今まで数多くのイベントを楽しませていただいた者として、お礼を申し上げます。注文の多い写真店。

\* \* \* \*



### 河合 秀次

まずは今回の受賞、本当におめでとうございます。その著書『賢治とモリスの環境芸術』は今も手元に置き、時折眺めたり、読み返したりしております。又、『現代の景気と恐慌』は、学生時代は難しくサッパリ理解できませんでしたが、今読み返し

ますと随所に「オー、そうか、分かるではないか?」と思える個所がかなり出て来ます。これも年の功でしょうか?

2013年夏に同級生のF君と(作並の)賢治とモリスの館にお訪ねして仙台・羅須地人会に入会し、お食事を頂いたのをよく覚えております。あれ

からもう10年以上経過したのですね！ こうして研究領域を広げていかれる先生の研究態度に頭が下がりました。願わくは(叶う事であれば)、もう一度お元気になられて我々に種々のアドナイスを頂ければ、嬉しい限りです。(皆さん同様の思いでしょう！) 一日も早いご回復を祈念して！

(都内の自宅にて)

\* \* \* \*

### 土田 正昭

大内先生、今回の受賞おめでとうございます。私が東北大学経済学部に入學して初めて先生の教えを受けてから半世紀余りが経ちました。時代は大きく変化しましたが、先生の思想・実践はますます深化し時代の先行きを照らし続けていると思います。「マルクスーモリスー宮沢賢治」という思想的根源を今日に蘇らせた先生の「三部作」は私の座右の書となっています。また6年前の夏、半田正樹さんとともに私と私の弟(土田修)を作並の「モリスの館」に案内して下さいて深い感銘を受けました。

先生、どうぞお元気になられて、これからも私たちにご教示いただければこれほど嬉しいことはありません。先生の御快復を心より祈念しております。

(金沢市在住)

\* \* \* \*

### 内田 照久

晩期マルクス、ウィリアム・モリス、宮沢賢治と続く「共同体社会」と「人としての生き方」を研究・発見・喧伝されてこられた大内さんにとって、宮沢賢治賞奨励賞受賞はこの上ない名誉と喜びであられると思っております。

仙台・羅須地人協会設立時メンバーのお一人もおっしゃっておられましたが、「受賞自体が一番

嬉しいこと」で、その他はお飾りでしかありませんが、私共も大変嬉しく思っておりますとお祝い申し上げます。

\* \* \* \*

### 若生 和子

御受賞 誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

先生の宮沢賢治の講話、お話は、私には新鮮でわかりやすく面白く、時間があつという間に過ぎて行きました。またあのような時間があります事を、期待してやみません。大内先生の宮沢賢治の研究がこれからもずっと続くことをお祈り致します。この度の御受賞、本当に本当におめでとうございます。

\* \* \* \*

### 須江 達雄

10.21国際反戦デーにこの文章をしたためております。

ロシアによるウクライナへの侵略戦争、ハマスの壁を乗り越えた攻撃に対するイスラエルによるガザへの無差別空爆と悲劇が繰り返されています。グテーレス国連事務総長は気候変動について温暖期から沸騰期に入ったと警告メッセージを発しています。既にこの夏、世界中での高温による山火事、豪雨による水害、干魃、氷河の消失等々、枚挙にいとまがありません。地球人として心をひとつにして取り組まなければならないのに逆行の道を歩んでいることに満腔の怒りを持って糾弾します。

(1)再生可能エネルギーの地産地消

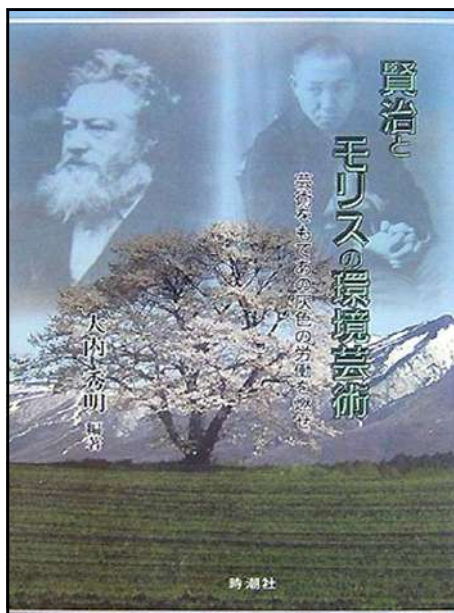
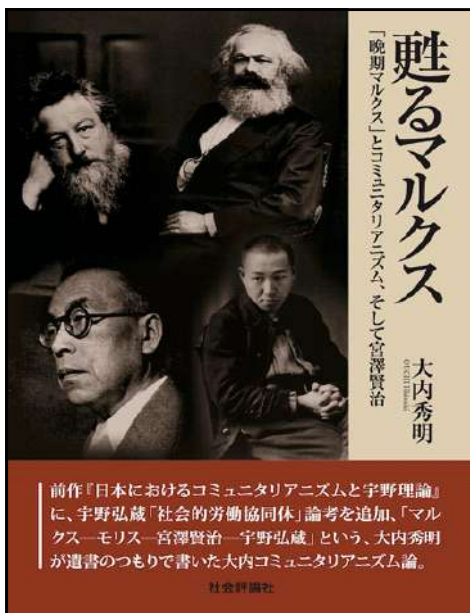
(2)これまで切り捨てられてきた第一次産業、林、農、漁業を土台にした循環型経済

(3)生産と消費の地場型産業構造への転換

(4)共助・互酬の協働労働と社会的非営利組織  
の社会的企業(生産・消費組合)  
【共同体】社会主義 大内先生より学んだこと

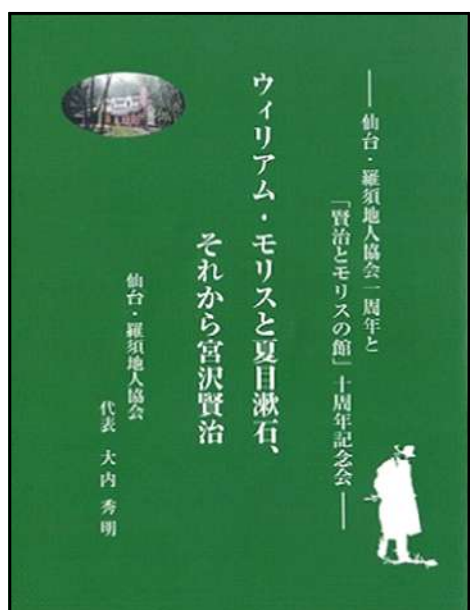
を再度学び直して、仙台の地で実践に活かして  
いきたいと思います。受賞おめでとうございます。

## 大内秀明代表の関連する著作等



「マルクス—モリス—宮澤賢治—宇野弘蔵」の系譜を継承する、大内コミニタリアニズム論の集大成。今回の受賞対象作品。2022年刊。

『ユートピアだより』から「イーハトヴ」へ。モリスと賢治、この2人の天才を環境芸術の先達と解き、そして「新しい賢治像」を提示。2007年刊。



2015年2月15日に仙台文学館で行われた「「仙台・羅須地人協会」1周年と「賢治とモリスの館」10周年記念会」の記録。2015年刊。

「賢治とモリスの館」開館10周年を記念したエッセイ集。それまでのブログ等で発表された論考の集成。2014年刊。



「賢治とモリスの館」10周年記念のテキストスタイル。



「賢治とモリスの館」Webサイトのトップページ。

## 編集後記

「セnderドつうしん」第8号(特別号)をお届けします。ご覧のように本号は、大内代表の「宮沢賢治賞奨励賞」受賞を祝す特別号です。本賞の内容や選考理由については、宮沢賢治学会のホームページを参照ください(<https://www.kenji.gr.jp/2023/08/10/21827/>)。なお、本賞贈呈式のプログラムに掲載された「受賞のことば」も収録しました。

さて、世界に目を転じると、深刻な事態が続いています。昨年2月に始まった「ロシア・ウクライナ戦争」は停戦の兆しが見えません(本誌の第5号(2022年4月)を参照されたい)。さらに、この10月からの「イスラエル・ガザ(パレスチナ)戦争」は最悪の事態に達しています。中東においては歴史的に複雑な問題があると言われてはいますが、イスラエル国家の樹立にかかわるイギリスの「二枚舌外交」、それによるパレスチナ人民の悲劇を忘れることはできません。ここでは深入りできませんが、手塚治虫『アドルフに告ぐ』(1983～85年)の一読をおすすめします。戦中のドイツ、そしてユダヤ・パレスチナ問題に対する手塚の思想的格闘がにじみ出ています。そして私たちに多くの示唆を与えてくれます。(た)

## 仙台・羅須地人協会

〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-5-12  
一番町中央ビル 8階「シニアネット仙台」内

HP <https://rasuchijin.jp/>  
Tel 022-266-5650 FAX 022-266-5662  
Mail [rasuchijin-office@rasuchijin.jp](mailto:rasuchijin-office@rasuchijin.jp)

